



1 ページ

みなさん、こんにちは。
私達は、寺津小6年1組です。

2 ページ

私達6年生は、5年生の時から総合で寺津の水害について学習してきました。

今日はこれまで私達が調べたり、聞いたり、実験したりしてわかったことを皆さんにお伝えします。

3 ページ

私達の発表を聞いて、洪水の危険性を感じてもらえたらうれしいです。

4 ページ



5 ページ

この洪水についてを調べ始めたのは、5年生の時社会の学習の「低い土地の暮らし」という学習で低い土地は被害に遭いやすいと知ってからです。そこで、川が近い自分達の地域はどうなっているのか、寺津は大雨が降ったらどうなるのかについても

6 ページ

「調べたい!!!」

と思いました。

7 ページ

地図や歴史を調べていくうちに寺津地域は最上川・須川に近く

「洪水の危険性が高い地域」

だとわかりました。



8 ページ

そこで私達は寺津で大雨が降ったり、川が氾濫したりした場合、どのようなことが起きるのかを知って、それを伝えることで地域の人に「洪水の危険性」を知ってもらいたいと考えています。

9 ページ

また、私達の学んだことを伝えることで自分達だけでなく、「地域の人々の命も守っていききたい」



と思っています。

10 ページ



11 ページ

7月28日の大雨で寺津地区と藤内新田が浸水した時、自分達は、どのように行動したのか忘れないようにまとめることにしました。水が雨と共に道路と田んぼに押し寄せてきました。

7月28日

★1:00

一斉下校をした。カッパを二枚重ねても少しぬれた。

★1:50

須川の水が上がってくる。

★2:00頃

お風呂・課題などを、家で人それぞれ大雨や洪水に備える行動をとった。

★3:00頃

蔵増の方が警戒レベル4までなっていました。

警戒メールが、10件位にまできていた。

★4:00頃

寺津で警戒レベル3になり、高齢者、65以上の避難指示が出た。

雨が止むが、消防車が避難を呼びかけていた。

★5:00頃

最上川に特別警戒がなり、氾らん特別警戒が出た。

4~5時までメールが鳴り続いた。

★6:00頃

警戒レベル4 避難勧告が出される。避難所に避難し始める人が増えた。



12 ページ

消防団の人達は最上川の水位が上がリ、大変危険だからと寺津地区と、藤内新田地区に避難指示が出された。

★7:00以降

避難所に行った人が多数いた。

寺津小では7家族ぐらい避難していた。

警戒メール20分に1回くらいに減った。

2日目

★6:00

最上川、寺津を見に行くと、堤防の半分まで水がひいていた。

13 ページ



14 ページ

寺津



道路が割れていた!?

でっかい木もおれていた!?

強さを実感しました。

15 ページ



16 ページ

新田



↑ 堤防からの写真

新田川の水があがっていた！

土がどろどろ

17 ページ

- ①水害の被害を大きくしないためには、どうしたらいいのか。
- ②避難する場合、どこに、どのように避難するといいのか。
- ③避難場所のコロナウイルスの対策は、どうすればよくなるのか。

21 ページ

鳥が大量発生！！



洪水は、とても恐ろしいものということがわかりました。

18 ページ

- ④自宅が床下浸水になったらどう行動をとればいいのか。

などの **課題**

にこれから向き合っていきたいと思います。

22 ページ

避難について

《ほかの学年の人にもインタビューしました。》



19 ページ

危機管理室
太田さんのお話を聞いて

23 ページ

『問題』

みなさんは、水害や地震が起きた時、寺津はどこに避難するといいか知っていますか？

答えは…

- ・地震の時は寺津小に逃げます。
- ・水害の時は天童三中か高楯小に避難します。



20 ページ

6月号の市報 太田さんにお話を聞いているとき



24 ページ

避難のこと

- ・家の屋根に上る
- ・家の二階に行く



・避難に遅れないためには、正確な情報を得るためにテレビでニュースを見る。

・一階建ての家にすんでいる人はニュースをみて危険だと思ったら逃げる。

25 ページ

屋外スピーカー

毎年3月に調査をしている。

最大で500m先まで届く。

藤内新田地区は聞こえづらい。

藤内新田地区は早めの避難が必要。屋外スピーカーにたよりにすぎずに行動するのが大切。



26 ページ

ハザードマップ
山形県と全国を結びつけて作っている。

川の近くは特に色が濃いので危ないそうです。

寺津を見ると、赤く染められています。



27 ページ

まとめ

太田さんは避難所のことや警戒レベル、命を守る行動を丁寧に教えていただきました。

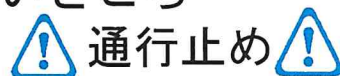
今回の洪水の際にハザードマップの大切さを実感しています。

28 ページ

公民館長さん
のお話を聞いて

29 ページ

危ないところ



寺津地区は70cmぐらい

30 ページ



レベル4

31 ページ

寺津地域が今のように暮らせるのは・・・

川の治水
のおかげ

でも・・・

32 ページ

ハザード
マップ

堤防

33 ページ



34 ページ

婦人会の奥山さん のお話を聞いて

35 ページ

婦人会の奥山さんにお話を 聞いて

- ・今回のような洪水は初めてで、こんな経験は、70年に1度、あるかないかだそうです。

36 ページ

《当時の状況》

- ・車も人も通れず、自治会の方々が通行止めにした。
- ・寺津の人たちは、経験したことない大雨で、警戒も想像もしていなかった。
- ・もし水門を閉めてなかったら、今のようなくらしになっていなかった。

37 ページ

- ・落合橋が冠水して、落合のふもとの被害が大きかった。

- ・田んぼが貯水池になったため、被害が少なかった。

38 ページ

《分かったこと》

- ・消防団の方々は、7月28日10時過ぎくらいから動き始め、最初にポンプ車で呼びかけをした。

- ・2回目に、「避難できる人は避難して」と呼びかけをした。

- ・1人暮らしの高齢者のお家を、一軒一軒歩いて訪ね回り、「避難して」と呼びかけをした。

- ・寺津沼付近や川の近くでは、途中で土のうが足りなくなり、山口地区の消防団が、土のうを運んでくれた。

39 ページ

まとめ

- ・寺津地域は、作業小屋の片付けが大変。

- ・その当時は、昼だったから逃げやすかったけど、夜だったら逃げるのが危なく、今よりも被害が多かったかも。

40 ページ

水門観測員の大木さんの話を聞いて

41 ページ

7月28日の大雨を機に寺津や新田を救うために尽力して下さった地域の方々がどんな仕事をしているか、気になりました。

42 ページ

そこで新聞の記事を集めたら、水門観測員の記事があったので、寺津にも同じような人がいると考え調べてみると、水門観測員の人ややはりいて、その人に話をうかがうことにしました。



43 ページ

《当時の状況》

寺①	寺②
2175cm	165cm
3260cm	265cm
4385cm	400cm



44 ページ

水害に対する備えをもう一度見直してみませんか。



45 ページ

水門観測員の方々や消防団の皆さんに感謝状を贈ります。

46 ページ

3Dプリンターについて実験してみよう

47 ページ

実験をしようと思ったきっかけ

私達は昨年から3Dプリンターで作った模型を制作し、洪水シュミレーションを行っています。昨年は洪水被害もなく、実際、川が氾濫したらどうなるか知りたかったからです。

3Dプリンターの良さ

3Dプリンターは、実際のを小さく縮小して立体的にプリントできる良さがあります。金型ではできなかったような複雑な形も作ることができます。

48 ページ

みなさんは
3Dプリンターがどこで
開発されたかわかりますか？

正解は名古屋

3Dプリンターは名古屋で日本人によって
開発されました。



49 ページ

3Dプリンターのしくみ

植物性のプラスチックを高温で溶かして、
ペンのようなものから積み重ねて
作品を作ります。

平面の地図データを入れ、
高さに応じてスライスし、それを重ねて
立体にします



←実際の写真がこれです



作
っ
て
い
る
と
き

50 ページ

私たちは、5年生の時に

やまがたメイカース
ネットワーク
代表の大津さん

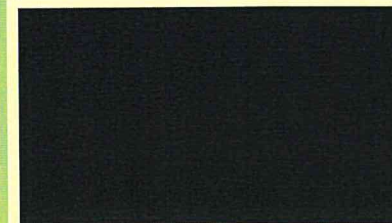
那須電機の
那須さん



3Dプリンターで作った寺津の模型を作り、
どの地区が早く浸水するのか実験しました

51 ページ

これが去年の映像です (4倍速)



52 ページ

実験からわかること

- ・ 藤内新田地区から水が流れこみ寺津地区まで浸水する
- ・ 昨年度の実験では、藤内新田地区から浸水する。



- ・ 今回の大雨の時には寺津地区から浸水した

53 ページ

そこで私たち
はなぜ結果が
違うのか考え
ました



54 ページ

- ① 寺津沼や河川の場所に水を入れないうで行ったこと
 - ② 模型のパーツとパーツの間に少し隙間が空いていて、そこから水が漏れてしまったこと
 - ③ 水門の開け閉めをしないで行ったこと
- この3つの問題点を解決し、もっと正確に洪水シミュレーションをしたいと思います



55 ページ

7月の大雨



天童西部

中山町 寒河江市

56 ページ



57 ページ



58 ページ



59 ページ



60 ページ

私達はこの学習を通して大雨が寺津にとってどれくらい危険かを知りました。私達はこれからも3Dプリンターの活動や水害の危険性を続け、また、寺津の方々だけでなく天童市や中山町の人にも伝えていく予定です。

61 ページ



62 ページ

これから大雨が降った時に私たちの発表を「思い出して行動」していただくと幸いです。

63 ページ

今までの活動ができたのは地域の方々のおかげです。

大好きな寺津のためにこれからも活動していきます！



64 ページ

